平成 27 年度　第 3 回　総会資料

平成 28 年 9 月 10 日

一般社団法人国際コーチ連盟日本支部

第３回定時総会開催にあたって

非営利型一般社団法人　国際コーチ連盟日本支部

代表理事　林 健太郎

会員各位・諸先輩のご協力とご支援のお陰をもちまして、第 3 期も第 2 期同様、無事に事業を完了することができました。皆様に心より感謝し御礼申し上げます。

非営利型一般社団法人　国際コーチ連盟日本支部（以下 ICF ジャパンと略称します）は国際コーチ連盟の支部として「世界標準のコーチングを日本に届け、コーチングを社会の共通言語にする」ことを目的に、地域におけるコーチングの普及およびコーチの交流と相互支援に関する活動を行っております。

今後も ICF ジャパンの活動趣旨に基づき、コーチ及びコーチングを採用する個人・法人、そして日本の社会全体にとって有益となる活動を継続するとともに、必要な新しさを取り入れる、保守と革新のバランスを継続しながら運営して参ります。

第 3 期におきましては、新たに就任した理事の積極的な活動により、2015 年 11 月に ICF ジャパンとして第 2 回目の開催となる「コーチング・カンファレンス in Japan 2015」を成功させ、年次カンファレンス継続開催の流れを作りました。また、「Coaching in English Group」の継続開催、アメリカ国際コーチ連盟本部主催の「ICF Global Leaders Forum 2016」への継続参加など前期に先鞭をつけた活動の継続性を担保し、会員のメリット向上に努めました。更に、理事会組織の変更など、中長期的な組織の安定性を維持するための施策にも積極的に取り組み、より強力な運営体制を構築することができました。

第 4 期につきましては、引き続き国際コーチ連盟本部との関係強化を行い、世界のコーチングとのパイプ役としての活動を行っていくと共に国内におけるコーチング産業の認知度向上に努めて参ります。また、これまでの東京を中心とした活動から、全国規模の活動へと活動規模を拡大する方策の検討を行い、具体的な施策の策定を行います。前期に引き続き、国内のコーチ養成機関やコーチング団体との交流の強化も進めて参ります。その他に、第 4 期末にて現理事が任期満了となるため、新理事選任への準備も進めて参ります。

ICF ジャパンは、皆様もご存知の通りボランティア活動で成り立っております。会員各位に於かれましては、皆様のお持ちのスキル・リソースを当団体運営にご提供願えればと思っております。皆様方の積極的ご参加をお待ちして居ります。

最後に、コーチングの普及発展と皆様方の益々のご活躍を願って、ご挨拶とさせていただきます。

１．　事業報告

1-(1)　日本社会に対する、国際基準のコーチングの普及・啓発事業

1-(1)-1 カンファレンス報告（大森）

日時：　2015 年 11 月 14 日（土）13:30 - 18:00
場所：　東京国際フォーラム ホール D5（東京都千代田区）
参加者数：162 名

ビデオ・メッセージ from ICF「会長＆CEO よりご挨拶」～世界のビジネスコーチングの動向～

ユーザ事例（1）東京海上日動火災保険株式会社『女性が活躍すれば、組織が変わる』～コーチングによる人材育成とチームワークの醸成～（東京海上日動火災保険株式会社 理事 東京自動車営業第四部長 西尾進　氏）

ユーザ事例（2）札幌市役所　『飼育員へのコーチング導入による動物園再生』（札幌市役所 豊平区市民部地域振興課長 北川憲司氏）

パネルディスカッション
～コーチング文化を組織に定着させるには？～
パネリスト
東京海上日動火災保険株式会社 理事
西尾進氏
札幌市役所 豊平区市民部地域振興課長
北川憲司氏
(有)ドリームコーチ・ドットコム 代表取締役
吉田典生氏
国際コーチ連盟日本支部 代表理事 林健太郎

昨年度は国際コーチ連盟本部からプレジデントと CEO が来日し、日本を代表するコーチ育成機関の代表者が一堂に会し日本のコーチングの

未来について語り合いました。あれから１年、今年のテーマは「組織におけるコーチングの活用」とし、日本国内のコーチングの実情を知りたいという多くの声にお応えして、実際にコーチングを導入・活用していらっしゃる組織の方々にご講演を頂けることになりました。

組織内でコーチング活用された方々の本音から、これからコーチングを導入しようと検討されている組織の方、導入したけどもっと別の活用方法があるかもしれないとお感じになられている方、コーチとして組織に関わっている方々に、組織におけるコーチングの在り方を感じて頂き、組織の活性化や変革などを考える機会となりました。

1-(1)-2 CCE イベントをサイトに記載（牧野内）

ICF ジャパンでは、

⑴ ICF 認定資格取得を目指す方のため

⑵ ICF 本部会員資格を取得する方のため

また、認定資格・ICF 本部会員資格保持者の更新をしやすくしていただくため、それぞれのプロセス要件となる CCE（継続学習）単位の取得できるイベント等の情報を伝えていくことにしました。

4 月からは、法人パートナーの皆様の御協力をいただき、CCE 発行イベントをサイトとメルマガに掲載し、情報発信させていただいております。

参考）法人パートナー様一覧

株式会社 Oppochu
合同会社ナンバーツー
一般社団法人 日本支援対話学会
ビズナレッジ株式会社
株式会社コーチングバンク
株式会社両輪経営研究所
一般社団法人ドリームマップ普及協会
株式会社プロシードワン
一般社団法人コーチングプラットフォーム
コーチ・コントリビューション株式会社
株式会社理想ラボ
富士ゼロックス総合教育研究所
株式会社マックス・ユア・ビズ
株式会社アニメートエンタープライズ
NPO 法人ヘルスコーチ・ジャパン
株式会社コンフィダント・ジャパン
株式会社コーチ・アイエヌジー
NPO 法人日本アクションラーニング協会
有限会社ドリームコーチ・ドットコム
株式会社ウエイクアップ
銀座コーチングスクール
株式会社コーポレートウェルネス
株式会社グレディス
一般社団法人　東京コーチング協会
一般社団法人 日本コーチング教育振興協会

1－(2) ICF との情報交換及び、その情報の翻訳事業

1-(2) -1 GLF 報告（牧野内）

2016 年 3 月 3 日から 6 日までの 3 日半、アメリカノースカロライナ州シャーロットにて、第 2 回目となる、ICF の「グローバルリーダーズ・フォーラム（Global Leaders Forum）」が開催されました。国際コーチ連盟のチャプターリーダーが世界中から集結するこの会に、日本支部からも副理事長の田中智子と理事の牧野内正雪の 2 名が参加しました。

現在国際コーチ連盟は国際的な連携を本格的に強めるべく動いており、各チャプターの活動報告や、世界規模での ICF としてのブランディングと戦略、具体的協働、コーチング業界についての闊達な討議が行われました。

私たちは、日本の会員の皆様やコーチングに興味を持たれるすべての方のために、日本支部として「ICF が提供する価値を如何に日本の皆様に役立てるか」を念頭に、積極的に情報収集し、日本の現状について発信しました。EU の国々もラテンアメリカやアジアの国々も、非英語圏では同じような悩みを抱えており、チャプター間で助け合いコラボし合っていることを知りました。日本としても ICF 内での存在感を上げて他の支部と連携しあい、日本の皆様にいかに ICF の膨大なアセットをお伝えできるか、を念頭に置きながら今後の活動に力を入れて参ります。

1-(2)-2 ICF ロシアチャプターの表敬訪問報告（田中）

6 月 23 日、ロシアチャプターの代表 Elena Chelkidi からのメッセージを携え、Igor Voller が都内の ICFJapan 事務所を訪問くださいました。

2 時間半に及び、互いの国のコーチングや ICF の役割について語り合いました。

ロシアは広大な国土故、国内のコーチ達はなかなか集まる機会もないですが、15 年の歴史を誇り 200 名の ICF メンバーと資格保有者として MCC2 名、PCC20 名、ACC25 名を抱えており、プロとしての資格保持者を増やすことが目標であるが言語が多少障壁になっているそうです。

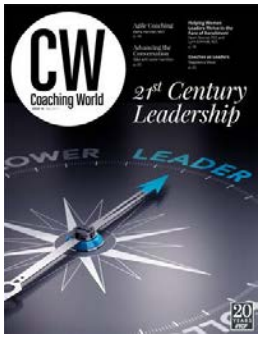
ロシアチャプターは年に一度 Web による総会 Web Conference を開催し、ロシア国内に留まらず、世界中の参加者に呼びかけており、毎年 5 月頃開催される世界的な Coaching Week にも、積極的にプロボノのコーチング機会を作っているとのこと。

また、この秋にはロシア極東でのリアルなカンファレンスも開く模様。これからも両チャプター共に、ICF の理念を通じ世界中のコーチ達と連携を深めることを確認し合いました。

1-(2)-3 コーチングワールドの翻訳（牧野内）

ICF では年に 4 回、コーチングワールド(CW)という情報誌をオンラインと pdf で発行しています。

ICF 日本支部では、ICF 本部の許可と翻訳ボランティア会員の協力を得て、このコーチングワールドの記事をピックアップして日本語に翻訳し、日本の皆様に世界のコーチング状況をお伝えしています。



2016 年 5 月号

『出会った人と繋がり、紹介してもらうための３つの方法』

翻訳：牧野内正雪

『マネージャーとリーダーのコーチングスキルの利用について』

翻訳：牧野内正雪

2016 年 2 月号

『企業内コーチングの新たな機会』翻訳：牧野内正雪

2015 年 11 月号

『ウェルネスとコーチ』翻訳：牧野内正雪

『倫理と基準　～道具箱から～』翻訳：大森　隆

2015 年 8 月号

『あなたのオンライン評価を管理するための６つの戦略』

翻訳：牧野内正雪

『コーチが有能なスピーカー（講演者）になるために』

翻訳：牧野内正雪

『文化を超えたコーチング』翻訳：原口佳典

『国際コーチ連盟（ICF）から倫理規定更新のお知らせ』

翻訳：ICFJ 事務局

2015 年 5 月号

『あなた自身を聴く　～道具箱から～』翻訳：原口佳典

1-(2)-4　ICF 倫理規定の改訂翻訳（事務局）

2015 年 7 月に改訂されました、ICF の倫理規定の翻訳を完了し、ホームページに公開いたしました。

国際コーチ連盟の倫理規定

前文
国際コーチ連盟（以下、ICF）は、コーチングの卓越性を維持し、促進することを約束します。そのため、すべてのメンバーと資格認定コーチ（コーチ、コーチのメンター、指導者＝スーパーバイザー・コーチ・トレーナーや学習者）に、ICF は、倫理的な行動についてその項目や原則を遵守すること、ICF によるコーチとしての能力水準（コアコンピテンシー）に則りそれをコーチングの中でも実践することを期待します。

倫理規定は、全ての ICF メンバーと ICF の資格保持者の行いに関して、ICF のコアバリューと ICF のコーチングの定義に沿って、適切なガイドラインと説明責任、行動基準を提供するように設計されています。

第 1 部：定義

コーチング　：　コーチングとは、思考を刺激し続ける創造的なプロセスを通して、クライアントが自身の可能性を公私において最大化させるように、コーチとクライアントのパートナー関係を築くことである
ICF のコーチ　：ICF のコーチは、ICF によるコーチとしての能力水準（コアコンピテンシー）に則り、また ICF の倫理規定を順守することを誓約する。
プロフェッショナルなコーチングの関係　：　コーチングが双方の責任を明確にした同意（契約を含む）があるときに、プロフェッショナルなコーチングの関係が成立する
コーチングの関係性における役割　：　コーチングの関係での役割を明確にするために、クライアントとスポンサーの違いを区別することが必要な場合がある。多くの場合、クライアントとスポンサーは同一であり、その際には当該者をクライアントと称する。国際コーチ連盟は、クライアントとスポンサーを区別するために、これらの役割を以下のように定義する。
クライアント：クライアントあるいはコーチィとはコーチングされる人（々）である
スポンサー：スポンサーとは、コーチングサービスの支払いを行うか、あるいは、コーチングサービスを設定した存在（その代理者も含む）である。すべての場合において、コーチング契約は明らかに両方のクライアントの権限、役割と責任を定め、クライアントとスポンサーが別の人であればスポンサーとする必要がある。
学習者　：　学習者はコーチングのプロセスを学ぶか、あるいはコーチングの能力を高め、開発するために、スーパーバイザーやメンターコーチに従事しているか、コーチのトレーニングプログラム

に籍を置いている者である。
利益相反：コーチが、コーチとしてあるいはプロフェッショナルとしての業務に影響が出る可能性のある程度に、プライベートな、または個人的な関心を持っている状況。

第 2 部：国際コーチ連盟の倫理行動基準

第 1 節：プロフェッショナルとしての行動
コーチとして、私は、
1) トレーニング、メンター、指導者（スーパーバイザー）としての活動を含むコーチとしてのすべての交流や活動において、ICF の倫理規定に従い行動します。
2) コーチ、トレーナー、メンターコーチの行いが倫理違反である、もしくはその可能性があることに気が付いた場合は、それが私、他人のどちらに対してのものかに関わらず、速やかにＩＣＦに連絡します。
3) それを知らされるべき相手（組織、従業員、スポンサー、コーチ、その他を含む）に対し、規定に定められた責任について説明し、認識を促します。
4) 年齢、種族、性別、民族、性的指向、宗教、国籍、障害などによる（違法な）差別を行いません。
5) 私がコーチとして提供するものについて、また、コーチの職業性や ICF について、真実と正確さを持って話し、文章化します。
6) コーチングの資格や専門知識、経験、トレーニング、認証や ICF の認定資格について、正確に明示します。
7) 他者の尽力と貢献を認識し、尊重し、私自身のものとしてそれらを偽りません。私は、この基準に違反すると、第三者による法的措置の対象となり得ることを理解しています。
8) いかなる時も、私のコーチングのパフォーマンス、あるいはプロのコーチとしての関係性を、損なう、対立を生む、妨げる等の可能性のある個人的な問題は常に意識するよう努めます。状況が必要とする際にはいつでも、速やかに専門的な支援を求め、コーチングの関係を中断もしくは終了することを含め、取るべき行動を決定します。
9) 倫理規定が私と、コーチングのクライアント、コーチング対象者（コーチィ）、学習者、メンタリング対象者と指導対象者（ズーパーバイジー）と私の関係に適用されることを理解しています。
10) 一定の科学的基準および適切な指針に従って、所定の能力を有した上で誠実に調査の実施および報告を行います。研究・調査を行うにあたっては、関係者から必要な同意および承認を得て、関係者に被害が及ぶ可能性がないように配慮した方法をとります。すべての調査活動は、研究が行われる国のすべての適用法令に準拠した方法で実施します。
11) 私は、守秘義務、セキュリティ、およびプライバシー保護を推進し、関連する法令や契約を遵守する形で、コーチング業務中に作成した、電子的なファイル通信を含む、すべての記録を保持、保管、および処分します。
12) ICF のメンバーの連絡先情報（電子メールアドレス、電話番号など）を、ICF によって認めら

れた範囲でのみ使用します。

第 2 節：利益相反

コーチとして、私は、

13) 利益相反およびその可能性を意識し続けることに努め、利益相反の可能性がある場合、率直に開示を行います。私は、そのような利益相反が発生した際は、自らの解任を提案します。

14) 組織内コーチの境界を定め、役割を明確化し、コーチングと他の役割との間で発生する可能性のある競合を利害関係者と確認します。

15) 当該クライアントの紹介によって第三者との間に授受される予定の報酬を、クライアント本人とそのスポンサーに対して開示します。

16) 報酬の形にかかわらず、コーチ/クライアントの対等な関係性を尊重します。

第 3 節：クライアントに対するプロフェッショナルとしての行動基準

コーチとして、私は、

17) クライアント及び見込みクライアントやスポンサーに、コーチングプロセスの潜在的な価値やコーチとしての私について、私が真実であると知っていることを倫理的に話します。

18) 私は、事前あるいは最初の会合で、コーチングのクライアントとスポンサーが、コーチングの特質や、守秘義務、金銭的取り決め、コーチングに関する契約上のあらゆる条件についての内容と範囲を確実に理解するよう、説明に努めます。

19) コーチングの関係を開始する前に、クライアントおよびスポンサーとの間に、明確な合意や契約を結び、この合意を尊重します。この契約はすべての関係者の役割、責任と権利を含むものとします。

20) クライアントやスポンサーと、物理的、あるいはその他の形でのやりとりの際には、明確で適切な意図に基づき、文化的に配慮した距離感を持って、接することを意識する責任を持ちます。

21) 現在のクライアント、スポンサー、学習者、メンタリング対象者、または指導対象者（スーパーバイジー）とは、いかなる性的または恋愛的関係も持つことを避けます。さらに、サポートスタッフおよび/またはアシスタントを含む当事者間の潜在的な性的親密さの可能性に注意し、安全な環境を提供するために、適切に対処するか、契約をキャンセルするなどの措置を取ります。

22) 同意や契約の条件に従って、クライアントが任意の時点でコーチングの関係を終了する権利を尊重します。コーチングの関係から受け取れる価値に変化が生じてきた際には、その旨を告知します。

23) 自分のクライアントやスポンサーにとって、他のコーチや支援手段がより適切であると判断した場合は、それらを勧めます。

第 4 節：守秘義務・プライバシー

コーチとして、私は、

24) すべてのクライアントおよびスポンサーの情報について、法律によって要求されない限り、厳格な水準で守秘義務を守ります。
25) コーチングの情報が、コーチ、クライアント、スポンサー間でどのようにやり取りされるかについて、明確な合意を持ちます。
26) クライアントとスポンサーの両方、学習者、メンタリング対象者または指導対象者（スーパーバイジー）を持ち、コーチ、コーチのメンター、指導者（スーパーバイザー）やトレーナー、として活動する場合、守秘性が維持されない可能性がある条件（例えば、違法行為、裁判所の有効な命令または召喚、自己または他人に危険が差し迫っているかそれに近い状況、など）について、必ず対象者と任意にかつ意識的に、機密性の限界に書面で同意するものとします。その中には上記のいずれかの状況が適用される際、私は該当する機関に通知する必要があるかもしれないと考えていることを含みます。
27) 私のクライアントをサポートするために私と一緒に働くすべての人々に対し、第 4 節：守秘義務・プライバシーの 26 条、および該当する可能性のある ICF 倫理規定の他の部分を遵守することを求めます。

第 5 節：継続的な能力開発
コーチとして、私は、
28) プロフェッショナルとしてのスキルを継続的に開発し続けます。

第 3 部：倫理誓約
私は、ICF のプロフェッショナルコーチとして、クライアント、スポンサー、同業者、そして社会全体に対して、倫理的・法律的な義務を履行することに同意します。

私は、ICF の倫理規定を遵守し、コーチングを行う相手に対してこれらの基準を実践することを誓います。私が、この倫理誓約もしくは ICF の倫理規定の一部にでも違反した場合、私の責任については、ICF の独自の裁量に委ねることに同意します。さらに、違反に伴いＩＣＦに対して発生する私の責任には、ICF における会員資格や認定資格のはく奪などの制裁が含まれることに同意します。

倫理審査プロセス（意見や苦情を申し立てるためのリンクを含む）の詳細については、こちらをクリックしてください。

2015 年 7 月　ICF 理事会にて承認
2015 年 12 月 ICF 日本支部　翻訳（2016 年 1 月 22 日版）

1-(3) 地域活動支援事業

1-(3)-1 地域状況の把握結果報告（事務局）

これまでの ICF ジャパンの活動は関東中心のため、会員も関東に集中していることがわかり、今後のフォローが課題であることがわかった。

（下記表は平成 28 年 7 月中旬現在の参考値。退会者も含む。）

	正会員	個人パートナー
北海道	1	2
東北・北陸	3	1
関東	**63**	**40**
中部	7	2
関西	9	2
中国	2	3
四国	0	1
九州	6	2
海外	1	0

＊地方会員からの意見：

東京で開催されるイベント等にも参加できない為、メリットが無い

地方で CCEU を取得できるイベントを開催して欲しい

→これについては、**1-(1)-2 法人パートナーの CCEU 発行イベント紹介** で一時対応。

1-(3)-2 JCA 福岡チャプターでの講演＆被災地熊本訪問（林）

2015 年 7 月 24 日、日本コーチ協会　福岡支部（以下、JCA 福岡チャプターと略）において ICF ジャパン代表理事の林健太郎が講演を行いました。

講演内容は、コーチングを習得したコーチ及び、コーチングに興味のある成人がコーチングの基本となる考え方を学ぶためのもので、講演テーマを第 162 回スペシャル勉強会『「あなたと話せて良かった」と感謝されるコミュニケーション術』として開催しました。

当日は、20 名超の参加者が集い、双方向の学びの場を通じてコーチングの基礎や国際コーチ連盟のリサーチデータからコーチング業界のトレンドについて学びました。

また JCA 福岡チャプターでの講演に先駆け、7 月 22 日、23 日に代表理事の林健太郎が熊本地震の被災地を訪問し、ボランティア活動を行いました。具体的な活動内容としては、被災者の方々へのコーチングセッションの提供及び、コーチングスキルを活用した聞き手として被災された方の状況やこれからのことをヒアリングする活動を中心として行いました。また、滞在中は日本コーチ協会熊本チャプター会員の皆様からの支援を受け、被災地の訪問を行うなど限られた時間の中でできる限りの活動を行いました。ICF ジャパンではこのような支援活動を継続して行って参りたいと考えております。

1－(4) セミナー・イベント事業

1-(4)-1 ICF 国際コーチ連盟国際認定資格　９月説明会

ICF が定めるプロフェッショナルコーチの信頼性をより明確に証明するため、ＩＣＦ（国際コーチ連盟）国際認定資格試験は 2014 年に大きな改変を行いましたが、15 年 10 月 1 日以降、丸 1 年の移行期間を経て、資格試験の出願要件に変更が加えられました。

最新情報を元に、ICF が定める各資格（ACC,PCC,MCC）とはどのようなものか、またそれぞれの資格を取得するためにはどのタイミングで具体的に何をすればいいのか等、ご案内しました。

日時：9 月 13 日（日）19:00 - 21:00　（開場: 18:40）
会場：文京シビックセンター

1-(4)-2 コーチングインイングリッシュグループ報告（野田）

今期－Coaching in English Group 開催の目的と実施報告
Coaching in English Group は英語でコーチングを行いたい方向けに開催しています。
2016 年 1 月より 2 ヶ月に 1 回の開催を 3 ヶ月に 1 回の開催に変更しました。
コーチングを英語で行いたい方はどなたでも参加可能です。
Coaching in English Group の開催目的は以下の通りです。

・ICF のコア・コンピテンシーに準拠したコーチングを英語で学ぶ場の提供
・CCE プロバイダーとして継続コーチ専門教育の単位の発行
・ICF ジャパンのイベントとしての活動

Coaching in English Group is held in September and November in 2015 and January, April and July in 2016. We have changed once in 2 months to once in 3 months from January 2016. We welcome anyone who wants to use English professionally in their coaching sessions.

The purpose of Coaching in English Group is as follows;
・Providing the place to study coaching complied with ICF Core Competency
・Issuing CCE (Continuing Coach Education)as a CCE provider
・Holding an activity as ICF Japan event

Coaching in English Group

September 17, 2015 (Thursday)　2 CCE
Lessons from a School Coach: What Coaching Children & Young People Can Teach Us about Coaching Adults
Michie Fukuda

Learn about the development and current state of school coaching in Japan. Understand key lessons from school coaching that can be applied to business coaching. Learn the skills practiced by school coaches that make them masterful at coaching adults.

November 19, 2015 (Thursday)　2 CCE
Mindfulness, Coaching from England: How to Boost the Effectiveness of Your Coaching Sessions
Masako Nemoto

Understand why mindfulness is now so important for coaches and their clients, learn about the effectiveness of mindfulness in the workplace, and practice specific mindfulness techniques to use in coaching sessions.

January 26, 2016 (Tuesday)　2 CCE
Coaching in the Workplace: Practical Tools for Coaching the Relational Undercurrents among Coworkers
Yumiko Shito, PCC

Experience firsthand the difference between individual coaching and system coaching. Learn how to apply system coaching to a team. Practice using an effective tool.

April 14, 2016 (Thursday)　2 CCE
Coach, Heal Thyself: Strengthening the Emotional Intelligence of Yourself & Your Clients
Robert Russell

Learn a three-step method for consciously incorporating emotional intelligence into coaching, how the body can help us identify

energy drains, and how coaches can nurture client awareness to transform energy drains into positive change.

July 14, 2016 (Thursday)　2 CCE
Introduction to Career Coaching: The Skills, Tools & Mindset of this Important Niche
Ritsuko Ajioka

Learn the key skills of a professional career coach as well as the two core energies that are at the heart of effective career coaching. Experience firsthand three exercises essential to a career coach's toolkit.

1-(4)-3 ボランティアケアイベント報告（遠山）

5 月 7 日(土)に、ボランティア向けイベント第一弾を開催しました。

このイベントは、理事及び運営委員が、ICF ジャパンにボランティアとして関わることの意義をより深く感じ、ICF やコーチング業界への理解を深める事を目的に実施している活動の一つです。

この日は、『ICF 本部に聞いてみよう！』というテーマのもと、ICF 本部から Fiona Toy 氏と、Lelix Lee 氏をスカイプで招き、普段直接話を聞く機会のない ICF の最新動向や成り立ちについて話を聞く機会を持ちました。

京都、熊本といった遠方からも、2 名がスカイプで参加し、合計 9 名が参加しました。

様々な視点からの質問に本部から答えてもらうことで、ICF についての知識を深めるとともに、チームビルディングの簡単なワークでお互いの親交も深めました。

ボランティアケアチームでは、適宜、ボランティアがお互いに&グローバルに繋がり合い、コーチング普及のためのインスピレーションを与え合えるようなイベントを開催していきます。

1-(4)-4　(後援イベント) TCA 日韓シンポジウム（土野）

2016 年 5 月 28 日、一般社団法人東京コーチング協会設立記念イベント「第 1 回日韓コーチング・シンポジウム」は、成功裡に終了しました。

シンポジウムご参加者：100 名

テーマ：アジアのコーチング未来を考える。
主催：TCA 一般社団法人東京コーチング協会
共催：KCA 一般社団法人韓国コーチ協会
後援：ICF 国際コーチ連盟日本支部
　　ICF 国際コーチ連盟韓国支部
　　ICF 国際コーチ連盟ソウル支部
　　RCI 関係性開発協会
講師：（社）韓国コーチ協会（KCA）　金ジェウ会長
　　「韓国コーチ協会“大成功の秘密”そのストーリー」
　　（株）グレディス代表取締役　杉井要一郎氏
　　「この躍動するグローバルパラダイムの変革期にコーチがなすべきこことは何か」
　　国際コーチ連盟（ICF）マスターコーチ　谷口貴彦氏
　　「成果につながるビジネスコーチングとスポーツメンタルコーチングにはある共通点があった」
　　国際コーチ連盟ソウル支部理事・国立済州大学教授　金ヘヨン氏
　　「韓国コーチングの現況と課題」
　　・パネルディスカッション
　　「コーチング：韓国で成功するコーチングと日本で成功するスタイル」

韓国から来日頂いた韓国コーチ協会や国際コーチ連盟（ICF）韓国支部、ソウル支部の方々をはじめ、シンポジウムにご参加頂いた多くの皆様から、今後のアジアにおけるコーチングの広がりや夢を感じさせる素晴らしいシンポジウムであったとのお言葉を頂くことができました。

今回のシンポジウムをきっかけに、コーチングを通してアジアの国々の人々との交流を深めていくことができればと願っています。

また今回のシンポジウムの開催にあたり、多くの企業・団体様から協賛のご協力を賜りました。更にクラウドファンディング等を通して多くの方々からご支援と温かい励ましのお言葉を頂きました。心から感謝申し上げます。

第 2 回日韓コーチング・シンポジウム開催予定
日時：2017 年 4 月予定
場所：韓国国立済州大学　国際交流センター
主催：国際コーチ連盟（ICF）　ソウル・韓国支部
共催：国際コーチ連盟（ICF）　日本支部予定
後援：東京コーチング協会（TCA）
　　韓国コーチ協会（KCA）
テーマ：検討中
講師：検討中
今後情報共有し、広報に努めたいと考えております。

1-(5) コーチングに関する調査研究事業・コーチ紹介事業

1-(5)-1 一橋ＩＣＳ、サーベイフォーカスグループ参加報告（田中）

「一橋大学大学院国際企業戦略研究科における、
ICF コア・コンピテンシーに基づくコーチングサーベイの開発協力」に関するご報告

2016 年 4 月 23 日（土）15:00-17:30

一橋大学大学院国際企業戦略研究科（一橋 ICS）は、組織のマネージャーのコーチングスキルを測定するための、ICF コア・コンピテンシーに基づくマネージャー向けコーチングサーベイを開発しています。これは組織内でコーチングを広め、コミュニケーションの質を向上させることを目的としており、英語版、中国語版、日本語版の順に、オンラインで無料提供される予定です。本サーベイの日本語版を完成／改善させるために、フォーカスグループのディスカッションに ICF ジャパンから有資格コーチが参加しました。

1.質問そのものがコア・コンピテンシーに沿ったコーチング的な質問か
2.コーチング的コミュニケーションのスキルを測定するためにふさわしい質問か
3.日本語として質問の内容がわかり易く一般化されていて、判断のブレを生じさせないか

等の観点から、主に Active Listening と Presence に関する質問を検証しました。

これらの質問集は公開されていくことを想定し、先ずは国内のあるグローバル企業のマネージャーと社員を対象に使われます。日本の市場調査に役立つデータを得ることができるきっかけとなることが期待されます。

1-(5)-2 ICFJ 正会員＆資格保持者のうち希望者をサイトで紹介（牧野内）

ICFJ では、ICF 資格を保持している ICFJ 正会員の皆様を、御希望いただいた方に限り、サイトで御紹介させていただくことに致しました。

＊御紹介は、ICF（本部）のメンバーページへのリンクという形で提供させていただいています。
＊参考：2016 年 8 月現在、日本人全体での資格保有者数は、ACC 143 名、PCC 140 名、MCC 32 名となっています。

＊掲載協力会員リスト（敬称略）

MCC 資格保有者 （0 名）

PCC 資格保有者（8 名）：たにだひでこ　田中智子　最上輝未子　原村和子　山田浩史　栂村雅美　浅井真帆　荒木まさえ

ACC 資格保有者（8 名）：髙橋美佐　松尾英昭　轡田芳広　遊道直美　倉田隆弘　関口詩乃　辻　剛　ビカー・リオネル（BIKART Lionel）

1-(5)-3 第 31 回国際心理学学会でのスピーチ（紫藤）

2016 年 7 月 24 日から 29 日までの 6 日間、第 31 回国際心理学学会が “Diversity in Harmony：Insights from Psychology”というテーマにて日本で開催されました。

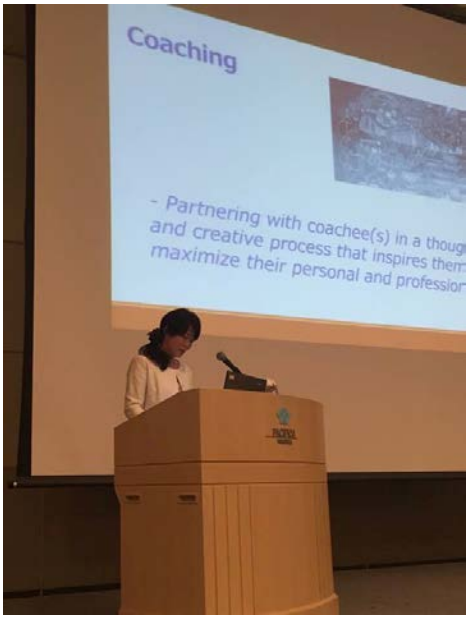
4 年に一度の開催ですが、世界 70 ヶ国あまりからおよそ 8,000 名の心理学研究者が集いました。

その中で、関西医科大学心理学教室教授、西垣悦代博士がオーガナイザーとなった招待シンポジウムにて 4 人のスピーカーの一人として登壇の機会をいただきました。

“Coaching Culture in Organizations – Perception of the value of coaching in organization and expectations of the coaching psychology” というタイトルにて、主に、コーチング文化が醸成されている組織は、そうでない組織に比べて社員のエンゲージメントレベルや業績が高いことなど、コーチングの効果を具体的数値とともにお話ししました。

また、コーチングと根拠に基づく科学・心理学などとの融合による効果、重要性、期待、についてもお話しさせていただきました。

コーチングの効果や ICF について知っていただくよい機会となりました。



1-(6) 出版及び教材の発行

1-(6)-1 メルマガの発行（牧野内）

10 月 1 日より毎月、会員・パートナー様向けの御案内と、非会員様向けの情報メールを分けて、それぞれ内容を変えて各 1 回、情報提供を行った。
（以下は会員・パートナー向け内容）

ICFJ 2016 年 7 月 4 日号 ━━

◆ 新年度の組織編制のお知らせ
◆ コーチングワールド：
　『倫理と基準　～道具箱から～』
　『出会った人と繋がり、紹介してもらうための 3 つの方法』
◆ ICFJ Coaching in English Group July Meeting
◆ 7 月～8 月の CCE 発行イベントのお知らせ
◆ ICF 本部の会員資格の更新はお済ですか？

---------事務局からのお知らせ---------
◇「ICF 資格取得者一覧」登録希望者を引き続き募集します
◇ 翻訳ボランティア募集のお知らせ

ICFJ 2016 年 6 月 4 日号 ━━

◆ 6 月～7 月の CCE 発行イベントのお知らせ
◆ コーチングワールド：
　『文化を超えたコーチング』
　『マネージャーとリーダーのコーチングスキルの利用について』
◆ ICF 本部の会員資格の更新はお済ですか？

---------事務局からのお知らせ---------
◇「ICF 資格取得者一覧」登録希望者を引き続き募集します
◇ 翻訳ボランティア募集のお知らせ

ICFJ 2016 年 5 月 5 日号 ━━

◆ ICF ジャパン、新しいチーム編成と今後の活動のお知らせ

◆ コーチングワールド：
『あなた自身を聴く』
『企業内コーチングの新たな機会』
◆「日韓コーチング・シンポジウム」のお知らせ（後援）
◆ 5 月～6 月の CCE 発行イベントのお知らせ
◆ ICF 本部の会員資格の更新はお済ですか？

---------事務局からのお知らせ---------
◇「ICF 資格取得者一覧」登録希望者を引き続き募集します
◇ 翻訳ボランティア募集のお知らせ

ICFJ 2016 年 4 月 6 日号 ━━

◆ ICF グローバルリーダーズフォーラム 2016 参加ご報告
◆ 2016 ICFJ Coaching in English Group April 14 Meeting
◆「日韓コーチング・シンポジウム」のお知らせ
◆ 4 月～5 月の CCE 発行イベントのお知らせ

---------事務局からのお知らせ---------
◇「ICF 資格取得者一覧」登録希望者を引き続き募集します
◇ 翻訳ボランティア募集のお知らせ

ICFJ 2016 年 3 月 6 日号 ━━

◆ ICF 本部の会員資格更新の時期です
◆ みなさまから戴いた質問を FAQ に掲載しました
◆ ICF グローバル リーダーズ フォーラムに理事２名が参加しています
◆ ICF Coaching World 最新号に副理事インタビュー記事が掲載されました
◆ コーチング・カンファレンス in ジャパン 2015 年でとりあげた
円山動物園（札幌市）に寄付をさせていただきました

---------事務局からのお知らせ---------
◇「ICF 資格取得者一覧」登録希望者を引き続き募集します
◇ 翻訳ボランティア募集のお知らせ

ICFJ 2016 年 2 月 4 日号 ━━

◆ 国際コーチ連盟によるプロコーチの倫理規定改訂版を公開

◆ 認定資格更新の新要件のお知らせ
◆ 資格などにまつわるページを新しく公開しました
◆ コーチングワールド：
　『あなたのオンライン評価を管理するための６つの戦略』
◆ １月のコーチ・イン・イングリッシュ・グループ
◆ 代表理事のインタビュー記事が掲載されました
◆ ICFJ からのミニアンケート

---------事務局からのお知らせ---------
◇「ICF 資格取得者一覧」登録希望者を引き続き募集します
◇ 翻訳ボランティア募集のお知らせ

ICFJ 2016 年 1 月 6 日号 ━━

◆ 林代表より新年のご挨拶
◆ 2016 年スケジュール
◆ コーチングワールド：
　『有益なパートナーシップを結ぶために』
　『コーチが有能なスピーカー（講演者）になるために』
◆ 2015 年度 ICF 資格(ACC/PCC/MCC)更新がお済みでない方へ
◆ 新版 ICF 倫理規定仮翻訳のご確認ありがとうございました

---------事務局からのお知らせ---------
◇「ICF 資格取得者一覧」登録希望者を募集します
◇翻訳ボランティア募集のお知らせ

ICFJ 2015 年 12 月 2 日号 ━━

◆ コーチング・カンファレンス in ジャパン 2015 のご報告
◆ 2016 ICF グローバル理事選挙結果発表！

---------事務局からのお知らせ---------
◆ ICF 資格(ACC/PCC/MCC)更新の必要な方へ
◇ ICF のグローバルリサーチに御協力ください。
◇ コーチングワールド：
　国際コーチ連盟（ICF）から倫理規定更新のお知らせです
◇2015 年の ICF 倫理規定改訂を日本語化します
◇会員更新手続きはお済ですか？

◇翻訳ボランティア募集のお知らせ
◇年末年始の事務局の休業のお知らせ

ICFJ 2015 年 11 月 4 日号 ━━

◆ 11 月 14 日 コーチング・カンファレンス in ジャパン 2015 いよいよ開催！
◆ Nov 14, Announcing the annual Coaching Conference in Japan 2015
◆ Nov 19, ICFJ Coaching in English Group November Meeting

---------事務局からのお知らせ---------
◇ 翻訳ボランティア募集のお知らせ
◇ ICF 日本支部会員・パートナー更新のお願い
◇ ICF のグローバルリサーチに御協力ください。

ICFJ 2015 年 10 月 9 日号 ━━

◇平成 26 年度　定時総会開催の御報告
◇ICF のグローバルリサーチに御協力ください。
◇Coaching Conference 2015 in Japan
◇CCE 発行団体　講座情報

1-(6)-2 サイトの更新（牧野内）

・ACTP／ACSTH／CCE プログラムの提供団体ページを作成した。
・認定資格フロー変更に伴い、資格に認定情報等を更新した。
・過去にいただいたお問い合わせを元に FAQ を作成し、サイトにアップした。
・法人パートナーである CCEU 発行団体のイベント情報､正会員の ICF 資格保持者情報をアップした。

→1-(1)-2 , 1-(5)-2 参照

・ICF 本部からの情報、イベント情報、コーチングワールドの翻訳などを適宜、掲載した。

→1-(2)-3 , 1-(2)-4 参照

1-(6)-3 Facebook での発信

これまで、facebook ページには、イベントの情報等を中心に掲載していたが、今年度からは、決定事項ではない話し合いのプロセスそのものも Facebook ページ上に掲載することとした。これにより、facebook 上での発信回数を増やし、プレゼンスを高めた。

1-(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1-(7)-1 理事会組織の変更（大森）

6/13 の理事ミーティングで承認を得ることができた後、人事プロセス（自薦他薦の投票形式）を経て、新年度に向けての組織が決定しましたので、ここで御報告いたします。

組織運営に必要な機能（ファンクション）ごとに 3 つにまとめました。

【リサーチ&マネジメント】
「ICF 本部の資料・データを日本語化するチーム」「リサーチチーム」の機能を引き継ぎながら、ICF 本部および他の ICF チャプター、ICF-J の顧問／パートナー／会員とのつながり強化などの役割を受け持ちます。

【マーケティング&オペレーション】
「ICFJ 会員のメリットとなるイベントを開催するチーム」「チーム　コーチング・プロモーション」「スポンサーチーム」の機能を引き継ぎながら、広報戦略・各種啓もう活動、イベントの企画運営の役割を受け持ちます。

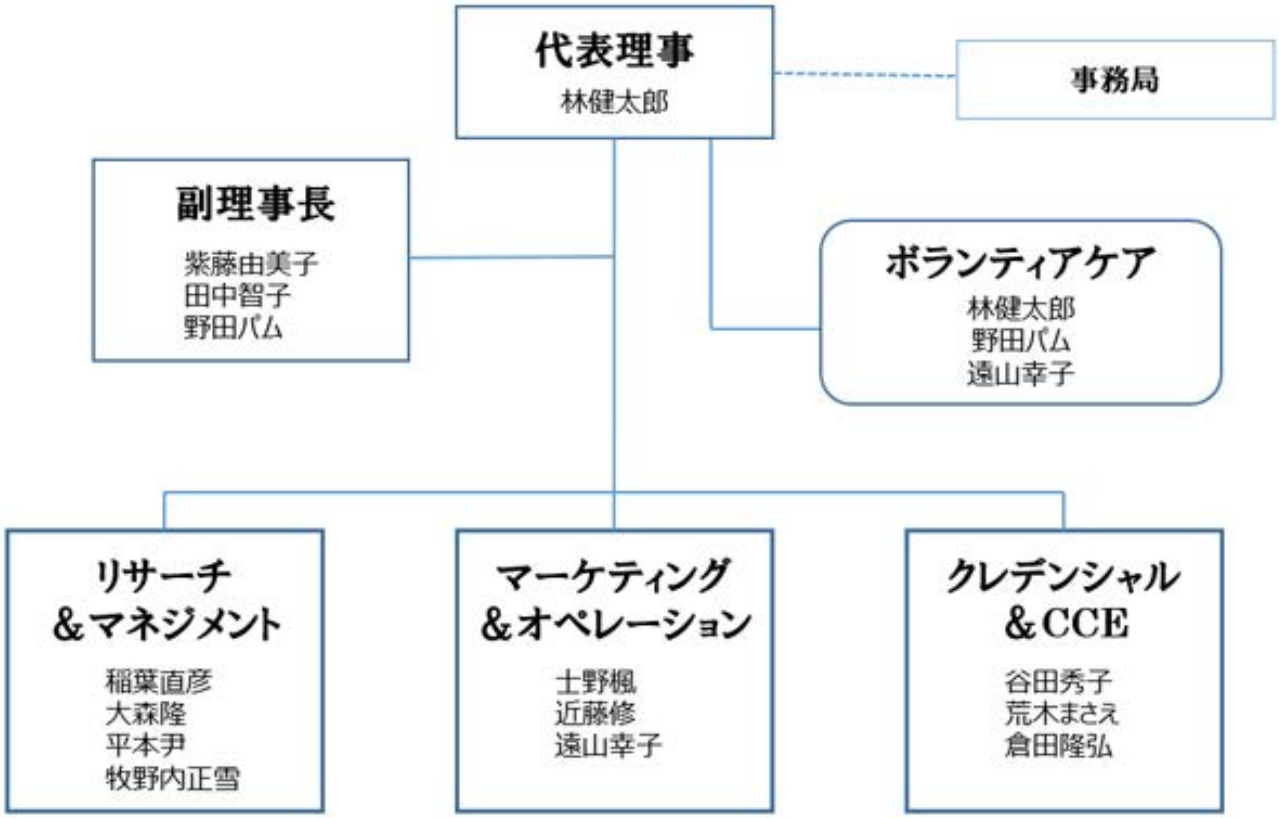
【クレデンシャル&CCE】
「コア・コンピテンシーと倫理規定の活用をコーチに促すチーム」の機能を引き継ぎ、資格取得（クレデンシャル）や継続学習（CCE）に関する啓蒙活動や相談業務を行う予定です。

各ファンクションのメンバーは以下の通り。(◎印はファンクションリーダー)

リサーチ&マネジメント：稲葉◎、大森、平本、牧野内
マーケティング&オペレーション：士野◎、近藤、遠山
クレデンシャル&CCE：谷田◎、荒木、倉田

「ボランティアケア」は代表理事付となり、上記のファンクションとは別に活動を行っていきます。

今回の組織は新年度（2016 年 8 月 1 日から）に向けての組織編成ですが、調整&準備の期間を含めて 6 月 24 日より施行されました。いままで各チームから発信されていました活動報告は、今後各ファンクションで判断し、しかるべき形で皆様に活動をご報告することとなります。



ボランティアケアチームの活動（林）

ボランティアケアチームは代表理事直轄のチームとして新たにスタートを切ります。活動内容はこれまで同様、ボランティアとして関わる理事、運営委員並びにボランティアスタッフがより快適に活動に参画し、お互いから学ぶ機会を持ち、喜びにあふれた体験を行うことを支援することです。具体的な活動については今後協議を重ね策定して参ります。各ファンクションとの連携を図り、状況に合わせ柔軟かつ迅速な支援を行うことのできる体制づくりを行います。

２．事業計画

2-(1) 日本社会に対する、国際基準のコーチングの普及・啓発事業

2-(1)-1 戦略計画の作成（稲葉）

R&M チームは、ICF ジャパンのミッションを実現するために、以下の活動を実施します。

・ICFJ 中期戦略の策定（3 年計画）

・ICFJ 内重点施策の進捗状況見える化を実施（１年間計画）

2-(2) ICF との情報交換及び、その情報の翻訳事業

2-(2)-1 GLF 参加

2-(2)-2 コーチングワールドの翻訳

2-(3) 地域活動支援事業（事務局）

2-(3)-1 地域団体へのサポート

地方でのイベントを充実させるため、下記の施策を試行する。

① 提携先地方団体（初年度は１団体予定）の開催するイベントに、ICFJ の正会員・個人パートナー・法人パートナーであれば、会員価格で参加できるようにする。（2 ヵ月前に希望があれば、CCEU イベントとして共催の形とすることを検討する。）

② 開催後、参加した ICFJ 正会員・個人パートナー・法人パートナーの名簿を提出し、ICFJ 側で有効と認めた場合につき、1 イベント参加者 1 名につき 500 円を運営費として支払う。

③ 上記の提携に協力してくださる窓口の方に、「ICFJ アンバサダー」の名称を付与する。

④ 2016 年 8 月以降に正式に契約を交わして提携をスタートし、お互いに協力して、1 年後を目途に他団体へ拡大できるモデルを構築する。

2-(4) セミナー・イベント事業（土野）

2-(1)-1 ICF 本部&他のチャプターとつながるイベント

目的：会員に、ICFJ 会員ならではのメリットを享受してもらうため。(会員に、ICF 本部や他のチャプターとつながってコーチとしての活動のインスピレーションを得てもらうため)

時期：2017 年 6 月頃

2-(1)-2 運営委員&フレンズ説明会

目的：

① 運営委員やフレンズに興味がある人に判断材料を提供する、仲間になってもらう。

② 運営委員やフレンズとして関わることのメリットを感じてもらう。

時期：2016 年 11 月頃

2-(1)-3 カンファレンスならびに地方カンファレンス

目的と時期につきましては、これから理事会で協議したいと思いますので、現時点では提出できかねます。

あくまでも、現時点のビジョンであり、変更の可能性があるということをご理解ください。

2-(1)-4 Coaching English Group（荒木）

Coaching in English Group 開催の目的

Coaching in English Group は英語でコーチングを行いたい方向けに年に 4 回開催します。

（1 月、4 月、7 月、10 月）

コーチングを英語で行いたい方はどなたでも参加可能です。

Coaching in English Group の開催目的は以下の通りです。

・ICF のコア・コンピテンシーに準拠したコーチングを英語で学ぶ場の提供

・CCE プロバイダーとして継続コーチ専門教育の単位の発行

・ICF ジャパンのイベントとしての活動

Coaching in English Group is held 4 times a year (January, April, July and October) and welcomes anyone who wants to use English professionally in their coaching in English.

The purpose of Coaching in English Group is as follows;

・Providing the place to study coaching complied with ICF Core Competency

・Issuing CCE (Continuing Coach Education)as a CCE provider

・Holding an activity as ICF Japan event

2-(1)-5 資格説明会＆コア・コンピテンシー等勉強会

資格説明会　初回開催：9/19(月・祝）14:00-16:00　　（以降、順次開催）

2-(1)-6 ボランティアケアイベント

2-(5) コーチングに関する調査研究事業・コーチ紹介事業

引き続き下記の方向で日本国内のビジネス界でのコーチングについての調査を支援していきます。

・一橋 ICS が行う本事業につき、日本語版の最終化レビューに協力

・英語版最終化について ICF 本部リサーチ部隊との連携にも協力

2-(6) 出版及び教材の発行

2-(6)-1 メルマガの発行

2-(6)-2 サイトの更新

2-(6)-3 Facebook での発信

2-(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2-(7)-1 理事・監事改選

2-(7)-2 会員更新・事業年度の開始・終了時期の変更（事務局）

現在、会員更新と事業年度更新が同時期に行われており、事業年度終了時に議決権を持つ社員の人数を確定することが難しいため、会員更新時期を前倒しにするか、事業年度を後ろ倒しにすることを検討する。

会員更新時期は ICF 本部の会員更新が終わった後に行う前提の為、4 月末日以降となり、決算時期を変更する場合には後ろ倒しになるため、年に 2 回の決算と総会が必要となる。

いずれにしても、課題が多いことから、影響範囲を充分検討の上、実施する。

３．　会計報告・予算案

3-(1) 平成 27 年度会計報告

平成27年度　貸借対照表

平成28年 7月31日　現在

非営利型一般社団法人　国際コーチ連盟日本支部　（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現　　金	30,614		
普　通　預　金	1,415,046		
流動資産合計		1,445,660	
資　産　合　計			1,445,660
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
預　　り　　金	－		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		70,000	
負　債　合　計			70,000
Ⅲ　正味財産の部			
1　指定正味財産		0	
2　一般正味財産		1,375,660	
正味財産合計			1,375,660
負債及び正味財産合計			1,445,660

平成27年度　収支計算書

自　平成27年 8月1日
至 平成28年 7月31日

非営利型一般社団法人　国際コーチ連盟日本支部　（単位：円）

科　　目	（非収益部門）	（収益部門）	（合計）
（資金収支の部）			
Ⅰ　経常収入の部			
1　会費収入			
正会員会費収入	348,000	－	
準会員会費収入	324,000	－	
賛助会費収入	804,000	－	
2　運用財産収入			
預金利息収入	195	－	
3　寄付金収入			
寄付金収入	－	368,829	
4　その他収入			
イベント収入	－	1,287,147	
支援金収入	1,601,086		
経常収入合計	3,077,281	1,655,976	4,733,257
Ⅱ　経常支出の部			
1　事業費			
業務委託費	127,500	－	
会場費	－	750,222	
イベント経費	－	472,378	
支払手数料	－	39,335	
事業費合計	127,500	1,261,935	1,389,435
2　管理費			
業務委託費	1,296,128	697,608	
賃借料	70,211	37,789	
事務用品消耗品費	48,527	26,118	
会議費	44,915	24,175	
旅費交通費	119,371	64,249	
通信費	16,163	8,699	
支払手数料	97,589	52,525	
諸会費	41,947	22,577	
寄付金	13,002	6,998	
法人都民税	－	70,000	
租税公課	26,024	14,006	
経常支出合計	1,773,877	1,024,744	2,798,621
経常収支差額	1,175,904	−630,703	545,201
Ⅲ　その他資金収入の部			
1　その他資金収入	0	0	
その他資金収入合計	0	0	0
Ⅳ　その他資金支出の部			
1　その他資金支出	0	0	
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額			545,201
前期繰越収支差額			782,518
次期繰越収支差額			1,327,719

（正味財産増減の部） Ⅴ　正味財産増加の部 　1　資産増加額 　　当期収支差額(再計)		545,201	
資 産 増 加 額 合 計			545,201
2　負債減少額 　　未払法人税減少額 　　短期借入金減少額		0	
負債減少額合計			0
増加額合計			545,201
Ⅵ　正味財産減少の部 　1　資産減少額		0	
資産減少額合計		0	0
2　負債増加額 　　預り金増加額 　　未払法人税増加額		0	
減少額合計			0
期末正味財産合計			0
前期繰越正味財産			545,201
当期正味財産増加額			830,459
負 債 増 加 額 合 計			1,375,660

計算書類に対する注記

1　管理費に関しては、非収益部門と収益部門それぞれ収入の比で按分しております。（法人都民税を除く）

2　消費税等の会計処理は税込方式によっております。

注：2016 年 7 月末現在、正会員 75 名、個人パートナー69 名、法人パートナー25 社

3-(2) 監査報告書

監査報告書

平成 28 年 8 月22日

一般社団法人　国際コーチ連盟日本支部
代表理事　林　健太郎　殿

監事　小茂田　亮次　㊞

私は、一般社団法人国際コーチ連盟日本支部の平成２７年８月１日から平成２８年７月３１日までの第３期事業年度の業務について監査を実施し、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告します。

１．監査の方法の概要

監事は、一般に定められた監査手続きに従い、事務局から事業の報告を徴収し、業務および財産の状況を調査しました。

また、決算報告書および事業報告書につき検討を加えました。

２．監査の結果

（１）決算報告書は、決算の状況を正しく示しており、指摘すべき事項は認められません。

（２）事業報告書は、一般社団法人　国際コーチ連盟日本支部の業務運営の状況を正しく示しているものと認めます。

（３）理事の職務遂行に関し、不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以　上

3-(3) 平成 28 年度予算案

平成 28 年度予算案

（平成 28 年 8 月 1 日～平成 29 年 7 月 31 日）

収益	受取会費	2,020,000
	受取イベント費	2,695,000
	受取寄付金	100,000
	本部補助金収入	650,000
	収益計	**5,465,000**

事業費	業務委託費	0
	会場費	1,375,800
	イベント経費	812,000
	小計	2,187,800
管理費	業務委託費	1,925,200
	賃借料	50,000
	事務用消耗品	300,000
	会議費	150,000
	旅費交通費	500,000
	通信費	150,000
	支払法人税	70,000
	租税公課	100,000
	小計	3,245,200
	経費計	**5,433,000**

正味財産期末残高	**32,000**

４.決議事項

4-(1) 定款変更

4-(1)-1 理事の要件の追加

理事改選を前に、定款に理事が正会員（社員）である必要がある旨、明記（現在は別途、規定。）第２項に「理事はこの法人の社員でなければならない。」を追加、各項を順に次項に移動。

<u>変更前</u>

（選任等）
第２４条理事及び監事は、社員総会の決議によって各々選任する。
２ 代表理事及び副理事長は、理事会において選定する。
３ 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
４ 理事のうち、理事のいずれか１人とその配偶者又は３親等内の親族その他法令で定める特別の関係にある者の合計数は、理事総数の３分の１を超えてはならない。監事についても、同様とする。
５ 他の同一団体の理事又は使用人である者はその他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして法令で定める者である理事の合計数は、理事の総数の３分の１を超えてはならない。監事についても同様とする。

<u>変更後</u>

（選任等）
第２４条 理事及び監事は、社員総会の決議によって各々選任する。
２ 理事はこの法人の社員でなければならない。
３ 代表理事及び副理事長は、理事会において選定する。
４ 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
５ 理事のうち、理事のいずれか１人とその配偶者又は３親等内の親族その他法令で定める特別の関係にある者の合計数は、理事総数の３分の１を超えてはならない。監事についても、同様とする。
６ 他の同一団体の理事又は使用人である者はその他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして法令で定める者である理事の合計数は、理事の総数の３分の１を超えてはならない。監事についても同様とする。

4-(1)-2 理事会の開催回数規定の変更

意思決定のスピードを速めるため、理事会開催回数を増やすことを柔軟に行えるように変更。

<u>変更前</u>

（種類及び開催）

第３６条　２　通常理事会は、毎年１回開催する。

<u>変更後</u>

（種類及び開催）

第３６条　２　　通常理事会は、毎年１回以上開催する。

以上